

令和元年度 旧八幡浜管内 生徒指導夏季研修会 実施報告書

1 日 時 令和元年 7 月 31 日（水） 13：50～15：40

2 場 所 国立大洲青少年交流の家 視聴覚室

3 講演内容

- ・ 演 題 「青少年のネット利用状況と情報モラル教育の実践について」
- ・ 講 師 LINE 株式会社 LINE オフィシャルインストラクター 石田 氏

(1) 青少年のネット利用状況

ア メッセージアプリの利用の実態

右の参考例のグループトークをもとに、グループワークを行う。自分ならこの後どのような対応をとるかや、生徒から「〈レナード〉を外す」という意見が出た場合に、生徒とどのようなコミュニケーションを取るかについて、話し合いを深める。

(ア) 「〈レナード〉を外す」という意見に対しての展開

- ① 教師側の反応としては、「やりすぎではないか」という思いになる。
- ② 別の見方として、このまま会話を続けたら、トラブルになる恐れがある。これまでの講演会で生徒から出た考えには、一度グループから外して、個別に対応した上で、理解を得られたら、またグループに戻すという対応もある。

◎ **必ずしも教師（大人）が考えていることが、正解というわけではない。利用の実態に応じて、臨機応変に対応することが重要である。**

イ インターネットビジネスの変遷

(ア) 主なインターネットビジネスの歴史

1996年に「Yahoo! JAPAN」がスタートして、2015年「Netflix」など目まぐるしく進化している。

(イ) インターネットとの関わり方について

インターネットビジネスが始まった頃は、パソコンを介してインターネットを利用していたが、それが携帯電話となり、現在はスマホやタブレットなどを介しての利用となっている。場所を問わず、指一本でどこでもインターネットが利用できる時代になっている。

(ウ) iPhone の誕生がもたらした現実

2008年には、iPhone が誕生した。場所を問わず、指一本でどこでもインターネットが利用できる時代が到来した。身近にインターネットが使える便利さと

例：陸上部 1 年生グループ（18 名）

〈レナード〉

明日の練習、何時だっけ？

〈コニー〉

7 時だよ

〈ブラウン〉

GOOD NIGHT（絵文字）

〈サリー〉

おやすみー

〈レナード〉

日曜日って、何時までかな？

〈既読 1〉

17 時くらいじゃない？

〈既読 1〉

GOOD NIGHT（敬辞）

〈レナード〉

最近練習きつくない？

〈メッセージアプリの例〉

ともに、トラブルが増加した。その2008年に生まれた子どもは、現在小学5年生である。大人と子どもでインターネットに対する意識に大きな違いが見られる。

(エ) インターネットを介しての主なトラブル8

① **長時間利用**

ゲームや動画、ながらスマホやコミュニケーションに関わる時間の使い過ぎ。

② **高額課金**

たくさんのお金を使って、ゲームのアイテムなどを購入してしまう。

③ **不適切サイトの閲覧**

性的描写や暴力表現など青少年にふさわしくないサイトを閲覧する。

④ **出会い**

SNSを介しての見知らぬ人物との出会いや自分の画像を送ることを求められることもある。

⑤ **著作権の侵害**

無許可の映像や音楽を違法と知りながらダウンロードする。

⑥ **不適切情報の発信**

悪ふざけの写真やデマの書き込みなどをSNSで発信する。

⑦ **個人情報の投稿**

個人を特定できる情報を流出する。

⑧ **悪口、いじり**

メッセージアプリを介して、悪口やいじり、いじめに発展するケースもある。また、短文の意味の取り違いによる誤解が生じる。

取得先：
<https://linecorp.com/ja/csr/newslist/ja/2019/205>

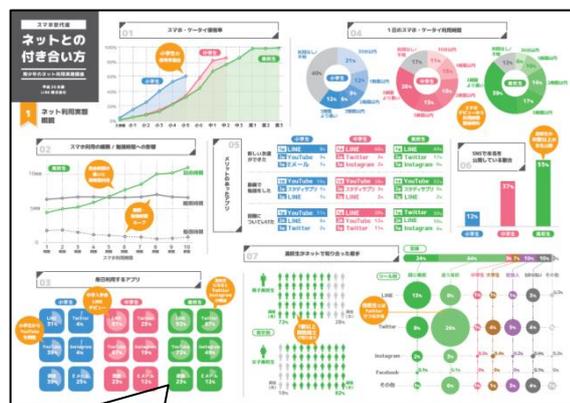
ウ ネットの付き合い方

(ア) 毎日利用するアプリについて

小学生は、家族と連絡を取るためにSNSを利用する。中学生は、友達や部活動での連絡手段としてSNSを利用する。高校生になると、「Twitter」や「Instagram」など個人情報の発信のためにもSNSを利用するようになり、発達段階とともに、SNSとの関わりは、時間的にも内容的にも増加傾向にある。

(イ) 情報教育の必要性

高校生になるとSNSとの関わりはより密になることを想定すると、その前に情報の活用について、正しい知識を小学生や中学生の段階で身に付けておく必要がある。



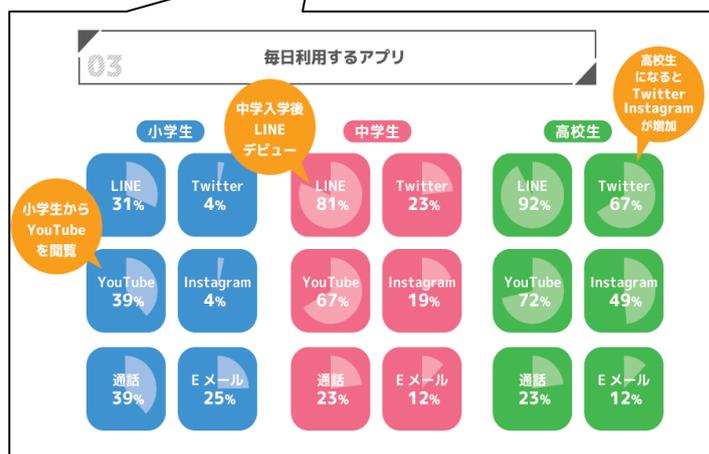
(2) 情報モラル教育の在り方と実践

ア 情報モラルの在り方

(ア) SNSとの関わり

SNSと関わる子どもに必要とされることは、以下の三つである。

① **危険を見抜く「力」**



- ② 賢く使う「力」
 - ③ 知恵を付ける「力」
- (イ) 「力」を育むための情報モラル教育
 (ア) の①～③の三つの「力」を育むためのポイントを、三つにまとめる。
- ① 日常のモラル
 日常でのモラルは、ネット上でも同じであることを確認する。
 - ② ネットの特性理解
 SNSについて理解する。SNS上に書き込んだことは、半永久的に消えることはない。
 - ③ 想像力、判断力
 「この後（のトークは）、どうなるか。」「やめるべきではないのか。」など先を見通す。

* 以下の(ウ)～(カ)では、LINE株式会社より準備していただいたカードやノート等の教材を利用して、授業実践と目的について研修したことを記載する。

- (ウ) 実践とねらい：その1 ((イ) - ①について)
 「あなたがクラスの友達に言われて『嫌だな』と感じる言葉はどれか。」
- 『まじめだね』
 - 『おとなしいね』
 - 『一生懸命だね』
 - 『個性的だね』
 - 『マイペースだね』

* 5枚のカードから該当するカード一つ選ぶ（研修参加者全員）。

- ① 研修参加者の反応は、『マイペースだね』カードが最も多い。
- ② 同じことを生徒で行った場合は、『個性的だね』が一番多く、嫌がる傾向がある。
- ③ 大人と子ども、状況によって、『嫌だな』と感じることに違いがある。

◎ 『嫌だな』と思う言葉は、人によって違う。
 相手の嫌な言葉が、自分の『嫌だな』と思う言葉であるとは限らない。



〈参加者の様子〉

- (エ) 実践とねらい：その2 ((イ) - ①について)
 「自分がされて『嫌だな』と思う順に並べる。」
- 『すぐに返信がない。』
 - 『なかなか会話が終わらない。』
 - 『知らないところで自分の話題が出ている。』
 - 『話をしている時にケータイ・スマホをさわっている。』
 - 『自分が一緒に写っている写真を公開される。』

- ① 研修参加者の反応は、『知らないところで自分の話題が出ている。』や『話をしている時にケータイ・スマホをさわっている。』カードが多い。
- ② 「生徒はどのカードが多いか。」という問いに、参加者の反応は『すぐに返

信がない。』であったが、実際には、『知らないところで自分の話題が出ている。』や『自分が一緒に写っている写真を公開される。』が多いとのことであった。

- ③ 『嫌なこと』についても、大人と子ども、状況によって、『嫌だな』と感じることに違いがある。

◎ 『嫌なこと』についても、人によって違いがある。価値観の違いについて、データを基に話を深めてもよい。

(オ) 実践とねらい：その3 ((1) -②について)

ネットは、次のような四つの特性がある。

- ① **公開される。**
ネット上の書き込みは、全世界に公開される。
- ② **記録される。**
一度発信した情報は、完全に消されることはない。
- ③ **拡散する。**
容易に拡散する。
- ④ **「誰か」が分かる。**
素性は調べれば分かる。完全に匿名ということはありません。

「次の五つのカードを公開できるものとできないものに分ける。」

- 『友達の記念写真』
- 『バスケットボールでの集合写真』
- 『友達と家での勉強中の写真』
- 『お店で食事時の写真』
- 『デート中の写真』

- ◎ **写真を見るポイントは人によって違う。**
- ・ 写真に写っている物で個人が特定される。
 - ・ 店の名前などにより所在地が特定される。
 - ・ 電柱や家など、その人物の背景にある景色から所在地やその人物の生活スタイル（通学路など）が特定される恐れがある。
- このように、投稿者の意図としない情報からトラブルや事件に巻き込まれる可能性がある。

(カ) 実践とねらい：その4 ((1) -③について)

「5種類のメッセージアプリを介してのグループトーク。この先のグループ内の会話がどのようになるか（嬉しい、特に変化なし、悲しくなる、怒りだす）を予想する。」

- ① 自分は大丈夫と思っても、他の友達にはNGなこともある。
- ② 気になる部分のずれにより、トラブルが生じる。

- ◎ **グループ内の人数が増え、メッセージが多くなると子どもたちは人間関係、クラス、友達、時間などで返信等の優先順位を判断している。ネットコミュニケーションは想像力を働かせ、先を見通す力が必要とされる。**

(3) 情報モラル教育のカギ

「情報モラル教育のカギは、『継続力』」

情報モラル教育を実践することで、トラブルを防ぎ、犯罪や事件に巻き込まれないというデータもある。情報モラル教育は、一度やったから良いというものではなく、何度も繰り返し、巻き返し行っていくことで、もしもの「その時」に個々が備えることができる。SNSの利用が当たり前の現在、生徒の健全育成のための情報モラル教育のカギは、『継続力』にある。